

ニアミスは事故の予兆

2026年1月

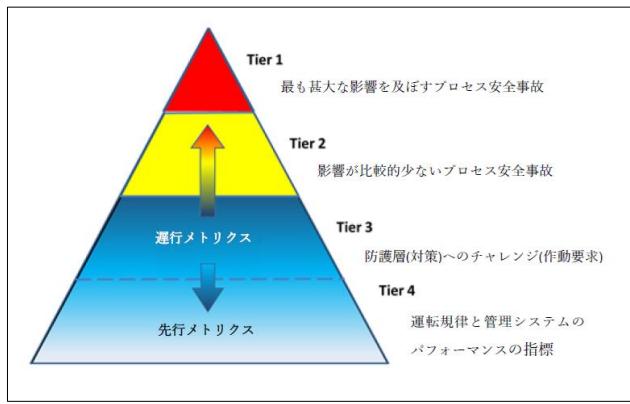


図1. CCPSプロセス安全メトリクス 先行及び遡行指標の選定ガイド
 (バージョン4.1 2022)のメトリクスの階層ピラミッド

保守作業員が圧縮空気供給系のバルブのボルトを外し始めた。配管は脱圧したと報告されていたが、圧縮空気が吹き出した。負傷者はいなかった。

オペレーターが巡回中に、漏れてはいないが、キャップが外れているいくつかのサンプリングポイントに気付いた。

これら2つはニアミスの例である。一部の企業では、これをヒヤリハットと呼んでいる。

ニアミス

「もし状況が異なっていたり、そのまま続行していたら、危害や損失を引き起こす可能性があったが、実際には発生しなかった想定外の出来事」(CCPS用語集)

事業を展開している企業の大半は、事故を調査して報告している。また、多くの企業ではニアミス報告書も提出させている。一般に、ニアミスはささいな出来事ではあるが、最終的に重大な事故に結びつく危険性を示す有効な指標である、と考えられている。

ニアミスは、図1に示すメトリクスのピラミッドの第3層に該当する。以下のサイトからCCPSのプロセス安全指標ガイドの全文にアクセスできる。

https://www.aiche.org/sites/default/files/docs/page/s/ccps_process_safety_metrics - v4.1.pdf

知っていますか

他のニアミスの例:

- 使用していた操作手順書が最新版ではないと判明した。
- プロセスの計装機器の状態不良、または校正不良が判明した。
- 現場の検査報告書に情報やデータの記載漏れがあった。
- 倉庫にあるべき原料用パレットが、埠頭に数日間放置されていた。
- ニアミスは、プロセス安全システムに問題があることの証である。これらの問題を是正しなければ、将来、より深刻な事故につながる可能性がある。
- ニアミスには事故調査を必要としないものもあるが、それらも、報告、収集、分析して、深刻な危険性が潜んでいないかを明らかにする必要がある。
- 各企業にはニアミスの定義とそれを報告するための仕組みが備わっている。
- ニアミスは現場だけで発生するものではなく、制御室、保守作業場など、どこでも発生する可能性がある。
- ニアミスの報告が活発であることは、プロセス安全文化が良好であることを示す一つの指標である。
- 多くの企業では、改善の余地を見出すために、ニアミスの定期的なレビューを行っている。

あなたにできること

- 会社のニアミス(またはヒヤリハット)の定義とその報告の仕方を把握しておくこと。
- 日々の行動の中で、ニアミスに注意を払うこと。そのような状況は想像以上に多いかもしれない。
- ニアミスは上司に報告すること。
- 安全会議で、ニアミスから得られた教訓を尋ねること。

ニアミスを報告せよ! 小さな問題の解決が、重大事故の防止になる。